

38 車椅子における看護用具の改良、改発

国立徳島療養所

久次米 勝子 安 富 千恵子
他12病棟看護婦一同

〔はじめに〕

PMD患者は、病状の進行に伴い、日常生活での姿勢が問題となってくる。不良姿勢に対しては、予防と矯正に努めるとともに、患者個々に応じた安全性、安楽性を考えなければならない。そこで昨年に引き続き姿勢に関する看護用具を、工夫したのでその結果を報告する。

1) ヘッドレストについて

前回作成したヘッドレストに更に、下記のような改良を加え試用中である。

改 良 点

① ヘッドレストのクッションを柔らかくするためにスポンジを厚くした（3 cm）また、両端のスポンジを厚くすることによって安定感をもたせた。

② ヘッドレストは図に示した様に、各部において患者個々の身体的条件に適合さすために可動範囲を広くした。

A：左右移動ネジ

B：上下移動および左右角度調節ネジ

C：前後移動ネジ

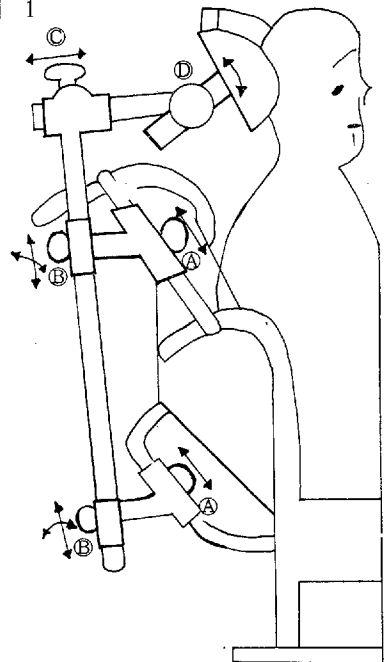
D：傾斜角度調節ネジ

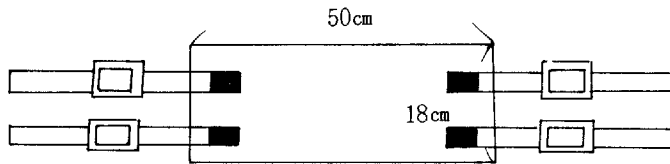
この改良されたヘッドレストは、躯幹、頸部の筋力低下の著しい患者に、正しい姿勢の保持安定を図るために使用している。とくに車椅子使用時の排尿介助とか、移動介助において、頭部の後屈を防止するのに役立っている。

2) 車椅子用安全ベルトについて

車椅子患者は、危険防止のため固定が必要であるが、とくに脊柱変形の強い患者の場合固定がむづかしい。従来は布製の巾広の抑制帯を使用していた。今回革製の安全ベルトを工夫した。

図 1





ベルト表面の材質は厚さ0.3 cmの革である。4本の小さなベルトを図のように、とりつけこのベルトを直接車椅子のパイプに固定した。また、穴アキバックルにより、長さの調節および、左右いずれからでも取りはずしが、できるようにした。なおバックルの位置は、車椅子の横棒あるいは、上肢と重ならない位置にし、操作をやすくした。裏面は綿布で覆ったスポンジをはり、皮膚への圧迫を少なくするとともに吸湿性をもたせた。使用によりズレ、ゆるみ等の問題点も解消され、また一定した固定ができる等、良い結果を得ている。

以上PMD患者の姿勢に関する看護用具を工夫し、患者の安楽性、安全性を検討した。

39. 車椅子期患者にみられる殿部痛とその対策

国立療養所西多賀病院

石井 正子 藤田 たけ子
和泉 リル子

〔はじめに〕

坐位生活（車椅子生活）を主とするPMD患者には、しばしば殿部における毛のう炎及び毛のう角化症などで殿部痛を訴える事が多い。なかには殿部痛のため車椅子生活が苦痛となり、ベッド上生活となる患者もいる。これらの患者は、ベッド上の生活をする事により、行動範囲、行動時間が縮められ、又他の患者との交流も少なくなりがちである。

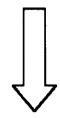
そこで殿部痛の原因を追求し、その対策を検討してきたのでここに報告する。

〔方 法〕

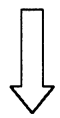
1. 殿部痛を訴える患者の現状把握

図1.の様な内容で対象患者34名にアンケートを行った。

2. アンケート結果と検討



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔はじめに〕

PMD 患者は、病状の進行に伴い、日常生活での姿勢が問題となってくる。不良姿勢に対しては、予防と矯正に努めるとともに、患者個々に応じた安全性、安楽性を考えなければならない。そこで昨年に引き続き姿勢に関する看護用具を、工夫したのでその結果を報告する。